

業績 (2015 年度)

A. 原著論文

1. Naito T, Kubono N, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Amlodipine passage into breast milk in lactating women with pregnancy-induced hypertension and its estimation of infant risk for breastfeeding. *J Hum Lact* 31: 301–306, 2015
2. Naito T, Mino Y, Aoki Y, Hirano K, Shimoyama K, Ogawa N, Kagawa Y, Kawakami J: ABCB1 genetic variant and its associated tacrolimus pharmacokinetics affect renal function in patients with rheumatoid arthritis. *Clin Chim Acta* 445: 79–84, 2015
3. Ishida T, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination of erlotinib and its isomeric major metabolites in human plasma using isocratic liquid chromatography-tandem mass spectrometry and its clinical application. *Biomed Chromatogr* 29: 643–646, 2015
4. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Saturated metabolism of voriconazole *N*-oxidation resulting in nonlinearity of pharmacokinetics of voriconazole at clinical doses. *Biol Pharm Bull* 38: 1496–1503, 2015
5. Tsuji Y, Ota Y, Kasai H, Hiraki Y, Yamada T, Matsunaga N, Ohishi H, Yaguchi T, Kitahara T, Naito T, To H: Population pharmacokinetics analysis of generic teicoplanin with MRSA or GPC infection by multicenter study. *Jpn J Ther Drug Monit* 32: 188–197, 2015. 辻泰弘, 太田幸雄, 笠井英史, 平木洋一, 山田尚広, 松永典子, 大石博史, 矢口武廣, 北原隆志, 内藤隆文, 藤秀人: 日本人 MRSA およびグラム陽性菌感染症を対象としたジェネリック・テイコプラニンの多施設共同母集団薬物動態解析. *TDM 研究* 32: 188–197, 2015
6. Naito T, Kubono N, Ishida T, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: CYP3A activity based on plasma 4 β -hydroxycholesterol during the early postpartum period has an effect on the plasma disposition of amlodipine. *Drug Metab Pharmacokinet* 30: 419–424, 2015
7. Tsunekawa N, Higashi N, Kogane Y, Waki M, Shida H, Nishimura Y, Adachi H, Nakajima M, Irimura T: Heparanase augments inflammatory chemokine production from colorectal carcinoma cell lines. *Biochem Biophys Res Commun* 469: 878–883, 2016
8. Yamamoto C, Ishida T, Osawa T, Naito T, Kawakami J: Trends in non-prescription drug recalls in Japan. *YAKUGAKU ZASSHI* (In press, 2016). 山本千琴, 石田卓矢, 大澤隆志, 内藤隆文, 川上純一: 日本における一般用医薬品の自主回収の実態調査. *薬学雑誌* (In press, 2016)

B. 総説

1. Kawakami J: Clinical pharmacology and pharmacoepidemiology for medication safety in clinical settings. YAKUGAKU ZASSHI 135: 619–624, 2015. 川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 薬学雑誌 135: 619–624, 2015
2. Tokuyama S, Kawakami J: Frontiers in research of drug transporters aimed at appropriate pain relief by narcotic analgesics. YAKUGAKU ZASSHI 135: 685, 2015. 徳山尚吾, 川上純一: 麻薬性鎮痛薬による適切な疼痛緩和治療を目指した薬物トランスポーター研究の最前線. 薬学雑誌 135: 685, 2015
3. Naito T, Kawakami J: Interindividual variation of pharmacokinetic disposition of and clinical responses to opioid analgesics in cancer pain patients. YAKUGAKU ZASSHI 135: 709–715, 2015. 内藤隆文, 川上純一: がん患者における麻薬性鎮痛薬の薬物動態及び臨床効果の個人差要因. 薬学雑誌 135: 709–715, 2015
4. Mino Y: Optimization of immunosuppression and the prevention of fungal infection in autoimmune diseases. YAKUGAKU ZASSHI 135: 1123–1127, 2015. 見野靖晃: 自己免疫疾患患者における免疫抑制療法と感染予防法の最適化. 薬学雑誌 135: 1123–1127, 2015
5. 内藤隆文: 第 14 回国際 TDM 会議 (IATDMCT2015) 参加印象記, 会員寄稿. TDM 研究 33: 40–41, 2016
6. 内藤隆文: 出発点としての薬物療法専門薬剤師, 専門薬剤師リレーエッセイ. 医療薬学 41: 451, 2015
7. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第 9 回学術大会にあたって, 巻頭言. ジェネリック研究 9: 3, 2015
8. 川上純一: ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦: 日本ジェネリック医薬品学会第 9 回学術大会大会長講演. 臨床医薬 31: 755–762, 2015
9. 津谷喜一郎, 川上純一: 第 35 回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム 35 「臨床薬理と医療技術評価」座長コメントと本トピックスの企画趣旨. 薬理と治療 43: 1385–1386, 2015
10. 内藤隆文, 田中紀章, 八木達也, 土井松幸, 佐藤重仁, 川上純一: 術後早期におけるフェンタニルの血中動態および尿中排泄に及ぼす CYP3A5*3 の影響. 臨床薬理の進歩 36: 153–161, 2015
11. 川上純一: チーム医療を通じた薬剤師の保険医療への貢献, ひろば. 週刊社会保障 69: 40–41, 2015
12. 内藤隆文: 多様化した薬物治療に対応可能な日本臨床薬理学会認定薬剤師, 専門・認定

薬剤師ガイド（臨時増刊号）．月刊薬事 57: 1382-1384, 2015

13. 川上純一: 薬剤選択の基準は治療効果: 科学的合理性への配慮が必要, 日本ジェネリック医薬品学会第 9 回学術大会: 大会長講演「ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦」．医薬ジャーナル 51: 1670-1672, 2015
14. 八木達也, 川上純一: 浜松医科大学医学部附属病院の NICU における薬剤業務の考え方. 薬事新報 2898: 727-732, 2015
15. 山本知広: これまでの当院 NST 活動とこれからの薬剤師の役割. 薬事新報 No. 2900 (2015 年 7 月 23 日) , p. 9-14
16. 川上純一: 男女共同参画社会づくり宣言書, 巻頭言. 静岡県病院薬剤師会会報 65: 4-5, 2016
17. 山本知広: 病院実習への取り組みーこれまでを振り返って. 静岡県病院薬剤師会会報 65: 11-13, 2016
18. 吉川望美: 母校を語る. 薬事新報 No. 2914 (2015 年 11 月 5 日) , p. 30

C. 記事・寄稿

1. 川上純一: チーム医療としての病棟薬剤業務, 病棟薬剤業務次のステップへ. ファーマシストぷらす 27: 8-9, 2015
2. 内藤隆文, 青野浩直, 堀雄史, 川上純一: 病棟業務に求められる薬剤部内の連携とスキルアップ, 病棟薬剤業務次のステップへ. ファーマシストぷらす 28: 6-8, 2015
3. 川上純一, 青野浩直, 内藤隆文, 堀雄史: 一人ひとりの成長がもたらす組織力の強化: 浜松医科大学医学部附属病院の取り組み. Pharma-Lead Plus 19: 9-12, 2015
4. 青野浩直: お薬手帳携帯啓発・本院の取り組み. 浜松医科大学医学部附属病院広報誌 是んだ山の風 21: 12-13, 2015
5. 堀雄史: 薬学教育と薬剤疫学. 病院薬剤部で実践するデータベースを活用した薬剤疫学研究. RAD-AR News 16: 12-14, 2016

D. 番組出演・報道

1. 木内祐二, 川上純一, 赤羽根秀宜, 狭間研至: 薬剤師 3.0 実現に向けた課題と解決策 (出演) , カンテレ Chanel+
YouTube: 第一部: <https://www.youtube.com/watch?v=tACG2WwPC7o>
第二部: https://www.youtube.com/watch?v=2eqhkd_inY4
USTREAM: 第一部: <http://www.ustream.tv/recorded/60714268>
第二部: <http://www.ustream.tv/recorded/60716624>

2. 川上純一: 進展著しいチーム医療、活躍の場は地域へも拡大: チーム医療への薬剤師の参画, チームで取組む新しい医療: 多職種による連携. 医薬ジャーナル 51: 1273-1274, 2015
3. 川上純一: 長期処方、投与日数の制限には慎重論も, 日病など病院関連団体. メディファクス No. 7077 (2015年5月20日), p.1
4. 川上純一: 門内薬局は「医師に物言えぬ」薬局 日病薬・川上氏 規制改革案に懸念「コーヒー屋と同列ではない」. リスファクス No. 6814 (2015年5月20日), p.1
5. 川上純一: 日病など病院関連団体 長期処方、投与日数の制限には慎重論も. Pharmacy Newsbreak. No. 463 (2015年5月21日), p.6-7
6. 川上純一: 幅広く医薬政策を議論する場に 後発品、バイオ後続品の使用促進への挑戦: 川上純一 (浜松医科大学病院薬剤部長) 大会長に聞く, 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会. 薬事日報 No. 11582 (2015年6月8日), p.4-5
7. 川上純一: DPC 分科会: 持参薬の現状把握へ特別調査を了承. メディファクス No. 7098 (2015年6月18日), p.6
8. 川上純一: 持参薬の現状把握へ特別調査を了承: DPC 分科会. 日刊薬業 No. 14216 (2015年6月19日), p.6-7
9. 川上純一: 次期診療報酬改定、7項目が重点要望事項-ハイリスク薬、周術期管理など: 日病薬が第51回通常総会. 薬事日報 No. 11589 (2015年6月24日), p.1
10. 川上純一: 院内処方と院外処方の患者負担の差に関する議論について: ブロック代表質問・中国. Pharmacy Newsbreak No. 490-2 (2015年6月29日), p.14-15
11. 川上純一: 医師、看護師の8割以上が負担減-薬剤師の病棟業務に高い評価: 政府調査の高評価に価値-日病薬・川上常務理事「現場の取組み見てもらえた」. 薬事日報 No. 11594 (2015年7月6日), p.7
12. 川上純一: 学術大会レポート: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会 (浜松)「ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦」. 月刊ジェネリック No. 148 (2015年7月): 38-39, 2015
13. 堀雄史: 副作用発現頻度の解明に院内で蓄積した情報活用-浜松医大病院薬剤部が報告: 医療薬学フォーラム2015. 薬事日報 No. 11598 (2015年7月10日), p.3
14. 川上純一: お薬手帳啓発に家康くん: 浜松医科大学付属病院 ポスター400部配布へ. 静岡新聞 No. 26434 (2015年8月22日) 朝刊, p.19 (地域西)
15. 川上純一: 調剤料不均衡是正より「医学管理料の充実を」日病薬・川上常務理事. メディファクス No. 7175 (2015年10月14日), p.1
16. 川上純一: 日病薬・川上常務理事 院内・外の調剤料不均衡是正より「医学管理料の充

実を」. Pharmacy Newsbreak No. 561 (2015年10月15日), p.8

17. 川上純一: 患者が抱く薬剤師像、病院と薬局で「二分」: 川上・日病薬常務理事、指導で求められるのは「記録」. Pharmacy Newsbreak No. 587-2 (2015年11月24日), p.3-4
18. 川上純一: 病棟薬剤業務加算 高度急性期の適用「大きい」日病薬が評価: 出来高病院への後発医薬品加算で、使用が「加速する」. リスファクス No. 6983 (2016年2月2日), p.1
19. 川上純一: 日病薬・川上常務、無菌製剤処理料「メッセージ性高い」: 喘息管理料で外来評価に道、かかりつけが病薬連携促す. 薬事日報 No. 11699 (2016年3月23日), p.1
20. 川上純一: 28 改定について川上常務理事が説明: 日病薬第 52 回臨時総会. 薬事新報 No. 2934 (2016年3月24日), p.21

E. 著書・翻訳

1. 川上純一 (編集): モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト 第4版. 病院・薬局実務実習東海地区調整機構/監、実務実習テキスト作成研究会/編, じほう, 東京, 2015
2. 内藤隆文 (執筆): モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト 第4版. 病院・薬局実務実習東海地区調整機構/監、実務実習テキスト作成研究会/編, じほう, p.18-19, p.25-27, p.244-245, 東京, 2015
3. 川上純一: 浜松医科大学医学部病院薬剤部. 岡田弘晃, 渡辺善照 (監修), 薬剤学概史: 私はこう見る 120人による俯瞰図, じほう, 2015, 東京, p.430-433
4. 川上純一, 見野靖晃: 血液透析患者における薬物動態の特徴を教えてください. 加藤明彦編著, いまさら訊けない! 透析患者薬剤の考えかた、使い方 Q&A, 中外医学社, 2015, 東京, p.1-5
5. 川上純一: 小児薬剤投与方法の原則, 水口雅, 市橋光, 崎山弘 (総編集), 今日の小児治療指針第16版, 医学書院, 2015, 東京, p.950-953
6. 浜松医科大学医学部附属病院薬剤部 (取材協力): 薬剤師のひみつ-みんなの“安心”のために-. 大石容子 (漫画), WILL こども知育研究所 (構成), 株式会社学研プラス (発行), 2016年3月 (初版)

F. 学会活動

【特別講演・シンポジウム・受賞講演など】

国内学会

1. 川上純一: チーム医療における薬剤師の役割と今後の展望. チーム医療の新しい展開:

チームで取組む新しい医療、多職種による連携. 第 29 回日本医学会総会 2015 関西, 京都, 2015 年 4 月

2. 内藤隆文: ミコフェノール酸モフェチルの TDM の考え方と測定値のアセスメント, 症例から考える免疫抑制薬の TDM. スキルアップセミナー4 (症例から学ぶ実践 TDM) . 第 34 回日本 TDM 学会・学術大会, 松本, 2015 年 5 月
3. 川上純一: ジェネリック・バイオシミラーのさらなる使用促進への挑戦: 大会長講演. 第 9 回日本ジェネリック医薬品学会学術大会, 浜松, 2015 年 6 月
4. 堀雄史: 病院情報データベースと副作用検出の実例. シンポジウム: 医療情報データベースの本格的な利活用. 医療薬学フォーラム 2015/第 23 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 名古屋, 2015 年 7 月
5. 内藤隆文: ミコフェノール酸の TDM の現状とこれからの方向性. 免疫抑制薬 TDM ガイドラインの策定: ライセンスを活用するための重要ツールとして. 第 25 回日本医療薬学会年会, 横浜, 2015 年 11 月

【一般発表】

国際学会

1. Naito T, Kubono N, Ishida T, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Relationship between amlodipine pharmacokinetics and CYP3A activity in lactating women with pregnancy-induced hypertension. 12th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2015). June 2015 (Madrid, Spain)
2. Ishida T, Naito T, Sato H, Ohnishi K, Kawakami J: Relationships between plasma concentrations of fentanyl and 4beta-hydroxycholesterol in cancer patients. 12th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics (EACPT2015). June 2015 (Madrid, Spain)
3. Hori K, Kato A, Kawakami J: Detection and validation of ototoxicity associated with anticancer platinum drugs using a hospital database. 31st International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Aug 2015 (Boston, MA, USA)
4. Yagi T, Ohara S, Katagiri Y, Yamada T, Ishida T, Yamamoto T, Naito T, Kawakami J: Pharmaceutical interventions to infection control and risk management in neonatal intensive care unit of a Japanese hospital. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2015; 75th International Congress of FIP. Sep 2015 (Düsseldorf, Germany)
5. Tashiro M, Naito T, Kagawa Y, Kawakami J: Plasma disposition of prochlorperazine and

- gender affect its antiemetic effect and prolactin secretion in cancer pain patients treated with oxycodone. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2015; 75th International Congress of FIP. Sep 2015 (Düsseldorf, Germany)
6. Sato H, Naito T, Ishida T, Ohnishi K, Kawakami J: Relationship between the oxycodone pharmacokinetics and serum interleukin-6 in cachectic cancer patients. 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT2015). Oct 2015 (Rotterdam, Netherland)
 7. Yoshikawa N, Naito T, Yagi T, Kawakami J: Fluorometric UHPLC method using NBD-F for quantitation of pregabalin in human plasma. 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT2015). Oct 2015 (Rotterdam, Netherland)
 8. Naito T, Mino Y, Aoki Y, Hirano K, Shimoyama K, Ogawa N, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of CYP3A5 and ABCB1 genetic variants on blood exposure of and clinical responses to tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis. 14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT2015). Oct 2015 (Rotterdam, Netherland)
 9. Tanaka H, Naito T, Mino Y, Kawakami J: Simultaneous determination of tramadol and its major metabolites in human plasma using isocratic LC-MS/MS and its clinical application. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2015 Midyear). Dec 2015 (New Orleans, LA, USA)
 10. Mino Y, Oshiro J, Naito T, Yamada T, Kawakami J: Characterization of the boxed warnings in package insert of medicine in Japan. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2015 Midyear). Dec 2015 (New Orleans, LA, USA)

国内学会

多数のため省略

G. 学会・会議開催

1. 第6回研究室リトリート, 浜松, 2015年5月
2. 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会, 浜松, 2015年6月

H. 研究会

1. 川上純一: 地域包括ケアシステムと病院薬剤師: 28年度診療報酬改定に向けて. 第2回 KPDC (Kitakyusyu Pharmacy Director Conference), 小倉, 2015年7月
2. 川上純一: 病院薬剤師をめぐる最新の話: 病棟薬剤業務を中心に. Inpatient Pharmacy

Conference（東京大学・東京医科歯科大学・日本医科大学・順天堂大学附属病院薬剤師勉強会），東京，2015年11月

3. 堀雄史：ビッグデータ時代に向けた医薬品安全性情報の創出，薬剤師による医薬品安全性情報の創出医薬品等規制調和・評価研究事業，眞野研究班講演会，仙台，2015年12月
4. 内藤隆文：ミコフェノール酸の血中動態の個人差要因：TDMを行う上での留意点と最近の話題．日本における免疫抑制薬 TDM の実際．第2回免疫抑制薬 TDM セミナー，品川，2016年2月
5. 川上純一：病院薬剤師関連の28年度診療報酬改定について．The 3rd Pharmacist Seminar in AICHI，名古屋，2016年3月
6. 川上純一：28年度診療報酬改定と中規模病院薬剤師に期待される役割．第2回 Okinawa Pharmacy Director Conference，宜野湾，2016年3月

I. 学外講義・特別講演

1. 川上純一：チーム医療推進と薬剤師業務の拡大・変化を考える上での諸問題．薬剤師3.0実現に向けた課題と解決策：その業務は薬剤師的に、法的に、経営的にOKか？，関西テレビKTV講演会，大阪，2015年4月
2. 川上純一：医療政策・診療報酬改定とジェネリック医薬品の使用促進．一般社団法人浜松市薬剤師会学術研修会，浜松，2015年4月
3. 川上純一：医療政策・経済と病院薬剤師の今後の方向性：カテーテル感染制御における薬剤師の役割も含めて．第1回高知医療薬学フォーラム，高知県病院薬剤師会，高知，2015年4月
4. 川上純一：2014年度診療報酬改定その後と今後の方向性．第3回OPDC，沖縄県病院薬剤師会，宜野湾，2015年5月
5. 川上純一：来たるべき医療変革とそれに対応できる病院薬剤師像．兵庫県病院薬剤師会第68回通常総会，神戸，2015年5月
6. 川上純一：医療政策・経済と病院薬剤師に求められること．平成27年度国公立大学病院医療技術関係職員研修（薬剤部職員），東京大学医学部附属病院・文部科学省，東京，2015年5月
7. 川上純一：医療政策と病院・診療所薬剤師の将来展望：真の薬剤師の職能と専門性を考える．平成27年度病院診療所薬剤師研修会，日本薬剤師会・日本病院薬剤師会，全7回（福岡，2015年6月；広島，2015年7月；仙台，2015年8月；札幌，2015年9月；名古屋，2015年10月；東京，2015年10月；大阪，2015年11月）

8. 川上純一: 活用していますか?ジェネリック医薬品: 基調講演 2. 市民公開講座「みんなで築く、私たち静岡県の地域医療」, 第9回日本ジェネリック医薬品学会学術大会, 浜松, 2015年6月
9. 小林利彦, 川上純一, 尾田優美子, 高橋英樹, 那須洋子: 住民の地域医療への関わり方: パネルディスカッション. 市民公開講座「みんなで築く、私たち静岡県の地域医療」, 第9回日本ジェネリック医薬品学会学術大会, 浜松, 2015年6月
10. 川上純一: チーム医療、地域連携の中で薬剤師はどのような役割を期待されるのか?. PharmaTribune 薬剤師セミナー: 新時代を担う薬剤師像 2015, 愛知県病院薬剤師会, 名古屋, 2015年6月
11. 川上純一: 医薬政策をめぐる諸問題: ジェネリック使用促進に向けた議論を含めて. 第340回浜松市医師会生涯教育研修会, 浜松, 2015年6月
12. 川上純一: 病院薬剤部門の管理・経営と人材育成. 大阪府下市立病院薬剤部長会, 大阪, 2015年7月
13. 川上純一: 「成長して、信頼されて、活躍できる」病院薬剤師になるためのキーポイント:臨床薬剤業務とチーム医療(NST)の推進も含めて. 平成27年度静岡県病院薬剤師会新人研修会, 静岡, 2015年8月
14. 川上純一: 薬剤師マネジメント: 今後の医療政策・診療報酬改定の方向性. 薬剤師マネジメントセミナー, 岩手県病院薬剤師会, 盛岡, 2015年9月
15. 川上純一: 病院薬剤師に関する医療政策・診療報酬改定のトピックス. 富山大学附属病院薬剤部講演, 富山, 2015年9月
16. 高井伸彦: 強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎の方にむけたお薬との上手な付き合い方. 難病医療相談会, 静岡県西部保健所, 磐田, 2015年9月
17. 堀雄史: 講演 C 薬剤疫学解析. MID-NET を用いた医薬品等のベネフィット・リスク評価のための協力医療機関情報共有研修会, 東京, 2015年10月
18. 川上純一: 病棟薬剤業務の将来展望: 薬物治療への貢献. 静岡県東部地区ファーマシストセミナー, 静岡県病院薬剤師会東部支部, 熱海, 2015年10月
19. 川上純一: 診療報酬改定に向けた議論と病院薬剤師業務の展開. 病院薬剤師のための学術講演会, 神奈川県病院薬剤師会, 横浜, 2015年10月
20. 川上純一: 医療制度・診療報酬の今後の行方と薬剤師の関わり. 第54回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 高知, 2015年11月
21. 川上純一: 薬剤師職員の教育やスキルアップに関する話題: 若手から中堅薬剤師の育成について考えるべきこと. 第42回日赤薬剤師会臨床薬学研修会, 名古屋, 2015年11月

22. 川上純一: 医療制度改革のゆくえとジェネリック医薬品の使用促進. 浜松市薬剤師会 学術研修会, 浜松, 2015 年 11 月
23. 川上純一: 平成 28 年度診療報酬改定について. 平成 27 年度全国自治体病院協議会薬剤管理研修会, 東京, 2015 年 11 月
24. 川上純一: これからの薬剤師の担うべき役割: 来春の診療報酬改定を見据えて. 京都府 薬剤師会第 32 回特別講演会, 京都, 2015 年 11 月
25. 川上純一: 今後の医療制度改革のゆくえ. ファーマシーセミナーアドバンス東京: 第三回薬剤師のための抗がん剤セミナー, 日本保険薬局協会・日本薬局学会・東京都病院薬剤師会, 東京, 2015 年 11 月
26. 川上純一: 医療制度・診療報酬改定の方向性: ジェネリック促進への薬剤師の関わり. 静岡県病院薬剤師会西部支部例会, 浜松, 2015 年 11 月
27. 川上純一: 病院における薬学的指導業務: チーム医療の実践と記録の重要性. これからの薬剤師業務: 薬学的指導の深化, 第 48 回日本薬剤師会学術大会, 鹿児島, 2015 年 11 月
28. 川上純一: 28 年度診療報酬改定の方向性と薬剤師に期待されること. 第 141 回福岡県筑後地区薬剤師研修会, 福岡県病院薬剤師会, 福岡県筑後地区病院薬剤師会, 久留米三井薬剤師会, 久留米, 2016 年 1 月
29. 川上純一: 28 年度診療報酬改定に向けた中央社会保険医療協議会の答申と議論: 開会の辞. 第 28 回静岡県病院薬剤師会学術大会, 静岡, 2016 年 2 月
30. 川上純一: 医療制度改革と薬局・薬剤師のあり方: 平成 28 年度診療報酬・調剤報酬改定を見据えて. 平成 27 年度薬学生涯研修講座: 医療制度改革と薬剤師のあり方を考える, 静岡県立大学薬学部同窓会, 静岡県立大学薬学部, 静岡, 2016 年 2 月
31. 川上純一: 28 年度診療報酬改定と病棟薬剤業務の方向性: 抗凝固療法の考え方も含めて. 徳島県病院薬剤師会学術例会, 徳島, 2016 年 2 月
32. 川上純一: 病院薬剤師関連の 28 年度診療報酬改定の概要と改正点. 静岡県病院薬剤師会学術講演会, 静岡, 2016 年 3 月
33. 川上純一: 28 年度診療報酬改定と病院薬剤師の今後の方向性. 茨城県病院薬剤師セミナー, 茨城県病院薬剤師会, つくば, 2016 年 3 月
34. 川上純一: 中小病院・診療所だからできること: 28 年度診療報酬改定と薬剤師に今後望まれるもの. 実践チーム医療・薬剤師 2016, 埼玉県病院薬剤師会, さいたま, 2016 年 3 月
35. 川上純一: 28 年度診療報酬改定をふまえた病院薬剤師業務の展望. 日本大学薬学生涯教育講座: ファーマシューティカルケアの最前線, 日本大学薬学部, 東京, 2016 年 3 月

36. 川上純一：病院薬剤師の将来展望：28年度診療報酬改定をふまえて。病棟管理業務薬剤師勉強会，沖縄県病院薬剤師会，沖縄県島尻郡南風原町，2016年3月

J. 施設見学

1. 姫野耕一先生（医療法人おもと会大浜第一病院薬剤科薬剤科長），2015年7月9日
2. 石原慎之先生（島根大学医学部附属病院薬剤部薬剤主任），原ゆかり先生（同薬剤師），2015年8月20, 21日
3. 大野能之先生（東京大学医学部附属病院薬剤部副薬剤部長），櫻井愛先生（同薬剤師），2015年9月2日
4. 静岡県立掛川西高等学校理数科1年生（41名），2015年10月16日

K. 研究助成

1. 川上純一（代表），内藤隆文（分担）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん患者における病期に基づくオピオイドの鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築」（27-29年度）（新規）
2. 内藤隆文（代表），川上純一（分担）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん悪液質の病態時におけるオピオイドによる鎮痛効果、有害作用の個人差要因の解明」（平成26-28年度）（継続）
3. 川上純一（分担），堀雄史（分担），佐井君江（代表）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「医療情報データベースを用いた免疫関連バイオ医薬品と化学薬品間の相互作用評価」（平成25-27年度）（継続）
4. 川上純一（分担），堀雄史（分担），今任拓也（代表）：平成27年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「新機序糖尿病治療薬の副作用に関する薬剤疫学研究とその応用」（平成27-29年度）（新規）
5. 堀雄史（代表）：平成27年度科学研究費補助金，若手研究（B）「医療情報データベースを用いたARBの医薬品相互作用の探索法開発およびその機序解明」（平成27-29年度）（新規）
6. 見野靖晃（代表）：平成27年度科学研究費補助金，若手研究（B）「尿酸生成酵素阻害薬の至適投与設計法の確立」（平成27-29年度）（新規）
7. 青野浩直（代表）：平成27年度科学研究費補助金，奨励研究「地域医療連携による外来薬物治療の最適化のための情報提供ツール構築と有用性の評価」（新規）
8. 高井伸彦（代表）：平成27年度科学研究費補助金，奨励研究「注射用タゾバクタム/ピペラシリンの推奨投与量が有効性や安全に及ぼす影響の解析」（新規）

9. 久保野尚子（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「インフリキシマブの出産前後における薬物動態変動および児への影響に関する研究」（新規）
10. 山田直香（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「急性期重症患者への投与を想定したメトロニダゾール静注液の配合変化についての検討」（新規）
11. 加藤真也（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「胃がん腹膜播種に対するトラスツズマブの腹腔内投与を用いた新規治療法の開発」（新規）
12. 大澤隆志（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「多発性骨髄腫患者におけるボルテゾミブの薬物動態と炎症性サイトカインの関係解明」（新規）
13. 大澤志保（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「腎機能低下時における用量調節の遵守状況及び有害作用発現頻度と治療継続率の関係解析」（新規）
14. 石田卓矢（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「肺癌患者の血中エルロチニブ濃度と 4 β -ヒドロキシコレステロール濃度との関係解析」（新規）
15. 原内智慧（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「妊婦におけるクロラムフェニコール臍錠の血中移行性と安全性の評価」（新規）
16. 加藤文美（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「レトロスペクティブ及びプロスペクティブ解析を用いたヘパリン至適投与量決定法の構築」（新規）
17. 山崎美穂（代表）：平成 27 年度科学研究費補助金，奨励研究「薬剤耐性菌出現防止を目的としたドリペネムの PK-PD 理論に基づく投与設定法の確立」（新規）
18. 川上純一（代表），堀雄史（分担），木村通男，大江和彦，中島直樹，横井英人，池田俊也，佐藤嗣道，佐井君江，頭金正博：平成 27 年度厚生労働科学研究費，医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の市販後安全対策における医療情報データベース利活用のための薬剤疫学研究」（平成 27 年度）（継続）
19. 八木達也（代表），内藤隆文（分担）：公益財団法人 薬学研究奨励財団. 第 36 回（平成 27 年度）研究助成金（グループ B）「術後患者におけるデクスメトミジンによる神経保護作用および有害作用の個人差に着目した至適投与法の確立」（新規）
20. 石田卓矢：浜松医科大学. 平成 27 年度大学院学生に対する海外研究活動支援
21. 佐藤聖：浜松医科大学. 平成 27 年度大学院学生に対する海外研究活動支援
22. 吉川望美：浜松医科大学. 平成 27 年度大学院学生に対する海外研究活動支援
23. 田中達也：浜松医科大学. 平成 27 年度大学院学生に対する海外研究活動支援
24. 内藤隆文：浜松医科大学. 平成 27 年度若手研究者の国際学会発表支援（1）
25. 堀雄史：浜松医科大学. 平成 27 年度若手研究者の国際学会発表支援
26. 八木達也：浜松医科大学. 平成 27 年度若手研究者の国際学会発表支援
27. 田代将貴：浜松医科大学. 平成 27 年度若手研究者の国際学会発表支援

28. 内藤隆文: 浜松医科大学. 平成 27 年度若手研究者の国際学会発表支援
29. 見野靖晃: 浜松医科大学. 平成 27 年度若手研究者の国際学会発表支援
30. 佐藤聖: 浜松医科大学. 平成 27 年度大学院学生研究支援「がん悪液質患者における炎症性サイトカインがオキシコドンの体内動態に及ぼす影響」(新規)
31. 吉川望美: 浜松医科大学. 平成 27 年度大学院学生研究支援「UHPLC 蛍光法によるヒト血漿中プレガバリン濃度の迅速測定法の開発」(新規)

L. 資格認定

1. 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 2 名
2. 日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師 1 名
3. 日本病院薬剤師会 精神科薬物療法認定薬剤師 1 名
4. 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 1 名
5. 日本病院薬剤師会 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 1 名
6. 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師 17 名
7. 日病薬認定指導薬剤師 17 名
8. 日本病院薬剤師会 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習 受講 9 名
9. 日本医療薬学会 指導薬剤師 5 名
10. 日本医療薬学会 認定薬剤師 12 名
11. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師 2 名
12. 日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師 1 名
13. 日本臨床薬理学会 指導薬剤師 3 名
14. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師 5 名
15. 日本臨床薬理学会 認定 CRC 1 名
16. 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 11 名
17. 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 8 名
18. 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 1 名
19. 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 4 名
20. 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士 3 名
21. 妊娠と薬情報センター拠点病院業務研修会 受講 4 名
22. スポーツファーマシスト認定業務センター認定 スポーツファーマシスト 1 名
23. 日本薬剤疫学会 ファーマコビジランス・スペシャリスト認定 1 名
24. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 レギュラトリーサイエンスエキスパート (PV 分野) 1 名

25. 日本 DMAT 隊員 1 名
26. 日本臨床化学会 認定臨床化学者 1 名
27. 有機溶剤作業主任者 技能講習受講 1 名
28. 普通第一種圧力容器取扱作業主任者 技能講習受講 1 名

M. 施設認定

1. 日本医療薬学会 認定薬剤師研修施設
2. 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
3. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
4. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師研修施設
5. 厚生労働省薬剤師養成事業 実務研修生受入施設

N. 学位

1. 薬学（博士） 7 名
2. 医学（博士） 5 名